

# 四国遍路の宿

四国遍路3

6番安楽寺の宿坊。食堂のテーブルのほとんどは団体客のものだった(観光バスで廻っている)手前のテーブルは歩き遍路5人のもの







これは朝食。バナナが付いたりヨーグルトが  
つくともって歩いておやつにした。



徳島の伝説の遍路宿 般若心経がプリントされた掛け布団。これで寝かせていただいた。この宿のファンになった遍路から贈られてもの



## 伝説の遍路宿(続)

途中で「あの宿はもう歳をとられて、止めているらしい」と聞いたが、とにかく電話をしてみるとOKだった。遍路コロガシといわれる12番焼山寺を超えてきていて、五日目の宿だった。着いたら、腰の曲がっているおばあさんが、引たくるようにして洗濯物を取り上げた。洗濯機に入れるのは自分でしたが、脱水の後、乾燥までに叩きのばしてくれていた。昔風の洗濯を思い出した。宿泊費は歩き遍路御接待ということで、千円引きの5千円だった。おまけに翌日の昼弁当のおにぎりがついた



伝説の遍路宿(続々) あまりにおいしそうだったので、ついついビールを所望してしまった。右手前は、地元でしか食べないという魚の煮物(名前は忘れた)。手間がかかるようだが、新しいので、口の中で弾むような弾力のある煮魚であった。





野宿する遍路のために、地元の人が建ててくれている無料宿



小屋の中には布団もある。多くの泊まった人の納め札が、感謝の気持ちを込めて張ってあった。

